

藝能文化雜誌

觀照

13

現代名人

ベネッセ・テン
發表

潤一郎・山城少掾

菊五郎・三津五郎

爐邊よもやま話

昭和二十三年二月

化膿症に

アルバジル姉妹品



山之内製薬株式会社

急性慢性淋疾
丹毒・面疔
化膿性外傷
齒槽膿瘍
萎膿症
中耳炎
扁桃腺炎

目次

(昭和23年2月)

四名匠に聴くよみやま話	3
観 藝 能 人 ベスト・テン	13
観 照	16
文 楽 春 愁	中野孝一 18
劇 菊五郎の合邦(南座顔見世)	武智鐵二 19
察 派のアラ(歌舞伎座襲)	北岸佑吉 20
喜多村の味(全上夜)	林秀雄 21
大 晏 寺のみ(中座村葦落)	林秀雄 22
劇 廣治郎のお團(南座一月)	武智鐵二 23
能 野 露の木賊(清原道善能)	沼 艸 24
能 玉井と望月(金襴會初會)	北岸佑吉 25
編 輯 後 記	26
表紙・カット	須田國太郎

照 (第十三號)

雪こそなけれ、ザインと冷え込込
師走の京の夜、顔見世の南座から、
「合邦」「身替座禪」の舞臺を終へた

四名匠に聴く話

郎 椽 郎 郎 よ
五 少 五 一
津 城 菊 潤
三 山 上 崎
東 竹 尾 谷
坂 豊 尾 谷

邊よ

菊五郎 三津五 郎兩丈 が寺島 夫人と 尾上鯉 三郎丈 を伴ひ 入つて 來た。

部屋の暖まると共に話題ははずんで
同席した谷崎夫人、それに安宅英一
氏や同人たちの間に興は盡きなかつ
た。期せずして在洛の藝術院會員が
新顔の大和屋とも四氏も顔を描へた
ことは、めつたに求められぬことで
しかも、その豊かな、汲めども盡き
ぬ話の数々こそ、求めて求め得られ
ぬものであつたが、筆録が思ふやう
に行かなかつたのは何より残念なこ
とであつた。

似たもの三人

谷崎 さア、こちらへいらつしやい
よ。あなたば風邪をひいてあるさ
うだから——。こゝには火が入つ
てゐますよ。

菊五郎 わたしやこちらで結構です
よ。差向ひでお話したいから。か
うやつて山城さんとお二人ならん
であらつしやると、よく似てゐま

すれ。

北岸 さう仰云る六代目さんの合邦
が谷崎先生をつくりですよ。

谷崎 僕は昔から六代目の坊主によ
く似てゐるといはれて來た。

菊五郎 「加賀憲」の道玄なんかに似
て頂いてはひどいことになる。

谷崎夫人 ところが、その道玄をつ
くりだといはれて居りますの。

谷崎 ア、あれは何といつたつけ、
龍達——「宵宮の雨」の龍達に似
てゐるなんかはいやだれ。

辰野嵐を衝く

谷崎 ところで、辰野君の被害者が
揃ひましたね。

山城 谷崎先生に是非伺ひたいと思
つてゐたのです。辰野先生が夕刊
「新大阪」の紙上で文楽を畸型的な
發達をしたゲテ物だ、趣味の賤民
の藝だと仰云つてゐます。わたく
しは子供の頃から味噌藝にいはい

つゞけて居りますから、悪口を承るのには慣れつゝになつてゐますが、文藝全体のことをこのやうにいはれまらず責任者として黙つては居られません。古くから傳はつてきた人形浄瑠璃を今更このやうにいはれて宜しいものでせうか。

そればかりではありません、亡くなられた梅若万三郎さんまで引合に出して、あれは音痴だなんてひどいと思ひます。實はわたくしはこの方を日本の藝に馴染みのない二世かと思ひました。

北岸 あれに對しては「新大阪」でも適當な人で反駁論を出したいといつてゐました。先に文藝春秋に書かれたものゝ蒸し返しですが、辰野博士は文藝をよく知らずに書かれてゐるのでせうから、本氣に相手になさるには及ばないではないでせうか。

大西 しかし、世間ではあの意見が

通りますので困りものですね。

山城 辰野先生も藝術院會員になられたといふことですが……。

北岸 フランス文學では一番の先生ですし、評論なんかで最近ことに賣れつこです。

山城 わたくしは先生にお願ひしてこの抗議をして頂かうと思ひましたが、最近、辰野先生の「谷崎潤一郎」といふ本が出ましたので、拜見すると、舊友谷崎と書いてありましたので、こりやいけなと思ひました……。

谷崎 辰野は文藝のこゝを褒めてゐる時もあるのですよ。あの男は別に悪氣があつていふのではなく、たゞ口が悪いだけ、江戸ッ兒でれ悪戯ツ氣が多いのですよ。

北岸 一年ほど前にも辰野博士は、「新生活」といふ雑誌の座談會で同じやうなことを話し出して、颯田琴次博士から、義太夫の三味線と

能樂の囃子とはすげらしいものだ西洋の機械的な修練では到底達することの出来ない精密さのあるものだ、と教へられてゐられるのを讀みましたが、義太夫はよほど趣味に合はんやうですれ。

沼 辰野博士は何か稽古されたことがあるのでせうか。

谷崎 辰野は兄弟ともスポーツマンで、高等學校の頃、樂隊ほど好きなものはない、樂隊をきくと血沸き肉躍るといつてゐたやうな男ですよ。

多田 だから、辰野博士の古典藝術の感得の度合ひなんか知れてゐますね。淨瑠璃だつて研究されたわけではないでせう。

谷崎 それなんだよ。これで案外人は悪戯が功を奏して喜んでゐますよ。山城さんのやうに眞面目にとられるから、いよいよ面白がるのです。

—— 文字なき名人 ——

山城 朝日新聞の六代目さんのお話でも辰野先生はひどいぢやありませんか。

谷崎 あれは週刊朝日で辰野さ僕との對談からなんで、僕も大いにすまぬと思つてゐるんですが、僕はあんなこと話した覚えはないのです。速記も辰野が俺に委せておけといつて僕は見なかつたところ、あんなになつてゐるんで驚いた始末です。

菊五郎 あのことで新聞社の人が來ました、さういつてやりましたよ。わたしやなるほど文字は讀めない。しかし假名ぐらひなら讀めますよとれ。さうぢやありませんか。文字は讀めるが役者は下手だといはれるより、文字は讀めないが役者はうまいといはれる方が、いゝぢやありませんか。このためには谷崎先生も大へん御迷惑にな

つてゐるでせう。

沼 あれから朝日新聞の「聲」の欄で先生の釋明文まで拜見しました。が……。

谷崎 まあ笑つてすませて貰ひませう。

—— 合邦のクシヤミ ——

菊五郎 山城さんも今月は「合邦」です。わたくしや初役なんです、あれで出てゐると、ごうも鼻が痛くて嚏が出て困るんです。あなたはそのことありませんか。

山城 私はそんなことありません。大西 毎日「オイヤイ〜」を力を入れてお演りになるからでせう。沼 六代目さんは法衣を着て出てゐられます。

菊五郎 他の人の合邦は途中から出て來るのですが、自分のは初めから出てゐるので、變化をつけるために法衣を着て、途中で脱いで、

終りにまた着るのです。

林 播磨屋は腰衣でした。

菊五郎 いや、あれは前掛ですよ。

他の人では合邦は途中から出てくるらしいが、それでは自分の娘の回向を他人様に任かせきりになるやうに思ひますので、わたしは初めから數珠の中に入つて鉦を打つてゐます。

多田 あれは結構でした。

武智 この次には端場を丸こと演つて頂けませんか。

菊五郎 イヤそれでは長すぎます。今度はホンの見物鎮めのために演つてみてゐますので、ざわめきが治らぬ間は鉦を打つてゐます。

山城 わたくしも若いころ、この前の万代池の段といふところを語りました、凝つてやると仲々面白いものと思ひます。業病を馳じて出奔した俊徳丸に淺香姫が巡り遭ふところへ、姫に横懸幕の次郎丸

が現はれて危険になる。そこへ闇覺の地車を曳いて勸進する合邦が來合せて二人を助けて歸るといふので、合邦の立廻りなどがありま

す。
菊五郎 あの場合の合邦は三枚目に出來てゐるのでせう。わたしどもの方では通しては演れません。

—— 女房は年寄り ——

林 庵室では蓮池が造つてあります
が、一体この芝居の季節はいつころなのでせう。

山城 万代池のところは春の彼岸といふことになつてゐます。

多田 謡曲の「弱法師」から脱化したものだから、これも春の彼岸となつてゐるのが當然と思ひます。

菊五郎 帝劇で兄の先代梅幸と松助とで合邦が出て、わたしは俊徳丸をしました時、最初、蓮池に花が咲いてゐましたがすぐ引込めさせ

て了りました。これは枯葉にするのが本當ですね。

北岸 こんな合邦は普通よりもすつと若くしてゐられたやうですね。

菊五郎 「十九やはたち」といつてゐる娘の父ですから五十二三ぐらひのところかと考へてゐます。尤もこんどは多賀之丞の女房がひどく年寄りじみて年上のかみさんですれ。

武智 ところで「もとより娘は斬られて死んだ」は奥に居る俊徳丸の手前を云ひつくるふ詞として演じてゐられるのですか。

菊五郎 表の玉手と奥とへ半分づゝかけて云つてゐるつもりです。

沼 人形の仕草は表の方へ聞えよがしに云つてゐるやうですが、山城さんはどちらへかけて云はれるのですか。

山城 他の方は存じませんが、わた

くしは兩方へかけて語ります。

—— 本文からの發見 ——

武智 これは山城さんが院本から發見されたことですが、「おなつかしやなつかしや」は玉手一人の詞として語つてゐられます。もつとも文樂の方でも、歌舞伎のやうに玉手と女房とに分けて語るのが普通なのです。

菊五郎 なるほど。

山城 ニツ目の「なつかしや」のあたりに「オ、」とつけますと女房になります、院本にはこの「オ」がありません。これを女房とすると「と縋る娘の顔形」とつゞく意味が通りません。どうしても「おなつかしや、なつかしやと縋る娘の顔形」までを玉手にして、「前後見つ肌の手を——」から女房であるべきだと思ひます。

武智 かう語つてこそ「うれしや健

でゐたかいの——」が生きて來ます。

林 「手持ち悪いぞ」で播磨屋さんは位牌の紙を破つて袂に入れるところを絃について芝居をされましたが——。

菊五郎 「父も程ふる娘の顔」で母と娘とが抱き合つてゐるところへ來

て、自分も抱きつきたい心を見せますが、「以前の詞と世の義理を思へばチャツと飛退いて」で思はず飛退いて、なほも心を残しながら佛壇の前に座り、それでも落着かず立上つて上手へ行き、柱に肘を打つて、バツの悪い体裁をかくす爲め池の手摺りに頬杖をつくのが「手持ち悪いぞいちらしき」一杯の仕事にしてゐます。もつとも初めは膝に手をおくことにしてゐたのですが、餘り人形の仕草に即くのでやめました。

多田 「以前の「腰」を錦の袋に入

れた刀にされたのは變つてゐますね。

菊五郎 合邦の親は青砥藤綱といふのですから昔の大名差しを持出して來たといふ心です。随分永いあひだ使つたことのない刀ですからさぞ錆びてゐたことぞせう。

武智 「どの頬柑でゆかした」は普通、玉手御前がツンとして、それを合邦が見て、ブル／＼怒りにふるへるところを六代目さんは構はず／＼運んでしまはれましたやうですが——。

菊五郎 あれは嫌なところなので……。それと入平が出て來て玉手に意見をするのは困ります。

泣けぬ合邦

武智 「奥へ指さし標々と」で婆々が上手の屋体を指さすところで合邦が叱るのは面白い。

菊五郎 俊徳丸がこゝに來てゐるこ

とは明かせないのですから、婆々が不意にそれをいひ出したので、こいつは拙いと遮つて、落着かない心を見せてゐます。

大西 「奥へ指さし」でハツキリした仕草を初めて見せてもらつたやうに思ひました。文樂ではこんな仕草はありません。

山城 人形の手が御承知のやうなものですから、それが出來ないのです。

沼 二度目の出で、文樂では合邦が鉢巻をしてゐますが、今度鉢巻をしてゐられませんね。

大西 文樂のは昔からある型らしいのですが、亡くなつた榮三さんは合邦の前身から考へてやめて居られました。

菊五郎 さうですか——。榮三さんは鉢巻をしませんでしたか。

武智 今度は淺香姫がばかに泣くちやありませんか——。

第五郎 淺香姫も合那も前では泣いてはよくありません。だいたい合那を見せようとするのは出来な

い。全くの縁の下の力持ちといふ役で、底をわらないやうにして耻を見せねばなりません。泣いてかかりますと「親の手にかけ殺さにやならぬそれがいやさに(ツーン)とめるのちや」が拙くなりますし第一「泣かれど親の慈悲心」といつてあるぢやありませんか。院本を讀めば泣けやしません。山城 さうです。「茶漬でも手向けてやりや」で充分親の心が判るやうになつてゐます。

—— 色氣は出せぬ ——

第五郎 玉手が「物語る内この刀、必ず抜いて下さんすな」といふ台詞をいひません。どうももう一度突刺したいやうな氣持ちになりま

多田 鳩尾をついてから盃を俊徳の方へ差出さなかつたやうですが

沼 あすこの高砂屋は昔は色氣が出てゐたのですよ。

山城 玉手の詞からいへば色氣を出せないところと思ひますね。

武智 「右に懐劍、左に盃」ですものれ。

第五郎 こゝのところは兎も角、玉手と俊徳とはくつついてゐた方が面白いといひれますね。

沼 その點になると谷崎先生にお考へ願はれば——。

谷崎 いや、どうも。

第五郎 幕切で玉手が辭世の歌を詠んだりお伽桶をつぶすのはやめ

ました。仕掛けのある桶を自分で持つて來ることはどうも工合の悪いものです。自分がやつて初めてそれが判りました。

三津五郎 わたしも「母の尻公を住

侶とせん」の台詞を抜きました。

谷崎 この台詞？

三津五郎 幕切の割台詞のところでは。院本には「嘆きの中に母親は頭の雪を打拂ひ」もあつて、女房が尼になるのですが、今度はそのをして居ませんので——。

武智 文樂の方ではこの段切で鬘覽さんを引出すところがありました

れ。文三なんか……。

山城 以前にはやりました。何分この段切は淋しいのですから、何か動きをつけて欲しいと思ひます。

榮三さんは鬘疊の前の鬘覽の像を禮拜してゐて「合那ヶ辻と」といふと船底へ降りて玉手の尻の前に降いて、鈴を振つてゐました。

—— 玉手御前の性根 ——

林 わたくしは東京で六代目さんの玉手を拜見しましたが——。昭和十六年でしたから二度目の時のも

のです。

第五郎 最初の時は橋尾（故中車）

さんに習つたものですから、袖を冠つて出ましたし、入平も途中から出しましたが、二度目から改めました。講中が歸りますと、チャチャンと柝を入れて道具を半廻しにして玉手が出ます。釣燈籠の下へ來ますと、後へ入平が出て、「これは知れど奥方の姿見ゆれば」で下手へかくれます。それが本當ですれ。

山城 入平を途中から出すのは役をよくしよと作るからでせう。

第五郎 この間玉手は見物に知れないやうに溜息をつき、肌につけた鮑を抱きしめて、こゝで死ぬ、俊徳丸の前で死ぬといふ決意を見えます。「窺ひ居る」で道具を元へ戻すので、戸口に寄り「かゝさんかゝさん」になります。サワリを二つに分けるのは、どうも具合が悪

いのでそれもその時からやめました。

多田 二つに分けられたサワリの後へ「此業病を母上の業とおつしやるその仔細は——」とくると、永々しく感じます。

武智 原作をいざぐるゝ無理になりませぬ。

山城 「お行方尋れるその中も君が筐さ」からは私も充分樂しみながら語らせて貰ひます。

—— 新假名遣ひ ——

多田 淺香姫の詞で「さげしんだのが——」といはれたようですが、「さげしむ」ですか、「さげすむ」ですか。

山城 院本には「さげしんだ」と書いてあります。

多田 谷崎先生の奥さん、大阪ではどちらでせうか？

谷崎夫人 さあ、さげすんで——と

いふやうに思ひますが——。

谷崎 東京では「さげすんで」とはいはない。

第五郎 東京でも「下さいませ」が多くなりました。

谷崎 東京なら「下さいませ」だけ。「ませ」は上方が混つて來たのだから。標準語はどうなつてゐるか。

多田 「せ」です。

三津五郎 「長兵衛の内」では伴の長松が「どうぞ行かずに下さいませ」といひますよ。

谷崎 さうですか。東京も随分變つて來たね。

山城 新假名づかひといふのは、どうなのですか。あれが出來ましてから、私どもの方でもクワンと發音するところでもカンでよいのだといふものが出て參りました。

谷崎 あんなものに僕は從ひませぬ山城 合邦でも「いかなる過去の因縁やら——」はクワエでなければ

意味が通じませんし、「正体なく」はシヨウダイとシヨウタイとのあひだで行かればなりません。これを喧しくいつても聞入れないので困つてゐます。

谷崎 土佐は正しい發音するところですよ。

—— 恐れ入れぬ仁木 ——

北岸 「床下」の仁木の出で、掛煙硝がいつものより薄くて、殆んどあがらなかつたやうですが——。

菊五郎 嚏が出るものですから、茶に香を混ぜてたかせてゐます。

多田 面明り二本を使つて居られますのは停電の用意かと思ひました。わざと照明を落して、古風に出来て結構でした。

林 「對決」でマイクをおかれましたのも、初めは録音のためかと思つてゐました。

菊五郎 仁木は最初から高い調子が

出せませんので、わたしの前にマイクをおきました。勝元からトントンと詰寄られて「恐れ入り——奉る」と初めて大きくなります。

北岸 私の見物の日に勝元が「わらべすかしの童話ちやが——」といひました。

菊五郎 頭を下げてゐるわたしもグツと腹に棒が立つたやうで、これを堪えるのに困りました。「汝の積悪、それでもあらがふか」が「汝の劇薬」などいろ／＼あるのですよ。

—— 臺詞の無軌道 ——

三津五郎 松居松葉先生の「千姫の死」でわたしは殺される坊さんを勤めました。その台詞の初めがみな「御方さま、御方さま」となつてゐるのです。それで千姫の千駄谷の兄さん（歌右衛門）がお前は台詞に「御方さま」と

いふれ、といひますから、それが台詞がみな「御方さま」で始つてゐるのですよ、といひますと、それぢやわたしにも判らないといひました。

菊五郎 鵬外先生の「曾我」は「十二時曾我」と同じやうな台詞が多いのです。犬坊丸が五郎を打つところでは、「なんと骨肉に堪へたか」とあるのを「なんと、おのれが／＼」といった嘘梅で、これを間違ひなく覚えるのが仲々の骨でした。

三津五郎 「安達」で浪野君（吉右衛門）の貞任にわたしが宗任だつたのですが、幕切でわたしが「おさらば」といふのをうっかりと「おさらば」とやつたのですよ、ア悪いことをいつたと思つたが通付きません、義家の高麗屋さんも「さらば」とやつたものです。

菊五郎 わたしのお嬢吉三で、兄貴

(羽左衛門)がお坊、高麗屋が和尙で附合つてくれた時です。二人の斬合ひのあひだへ和尙が止めに入つたまではよかつたのですが、すぐ台詞を忘れて、なんだつけれといふのですが、その時は當込みで「菊さあやめの——」とかなんぞか新しい台詞になつてゐるのでこちらは判らない。そのあひだ高麗屋は耳をほじくつてゐて、やがて、「——和尙だ。」どいつたゞで済したものです。

三津五郎 見物がすかきす「十八番」と半燈を入れましたつてね。それから綺堂さんの「熊谷出陣」で雁が渡るのを見てわたしの直家に向つて「直家、軍の血祭にあれを射よ」といふ所があるのです。それを「ア、直實」といつて了つて、「これはおれだ」といつたのは大出来だつたですれ。

—— 法界坊の陥し穴 ——

菊五郎 「法界坊」で甚三を附合つてもらつてゐたのですが法界坊が「サア斬るなら斬つてみる」といつては、恐ろしいので、退げ腰になるのですが、高麗屋の甚三は反對に下手へ下手へ遠ざかつて行くのです。變んだと思つてゐるうち、こちらは見得を切つたが、そこいらに甚三の姿が見えなくなつた。なんのことはない、法界坊の掘つた穴へおつこちてゐるのです。台詞をつける奴が下手の藪の陰に居るものだから、そつちの方へ寄つて行つたさいふわけでサ。

谷崎 先の勘彌はよく台詞を覚えてゐたのには感心した。

三津五郎 自分の弟ながら見上げたものでした。思入れて台詞のないところでも目が真中へ寄つてゐるのです、台詞を間違へまいと氣を配つてゐるのですれ。文藝座の公

演の時、高麗屋さんが、幕が閉つてから、俺なら腦溢血で死んで了ふよといひましたよ。

菊五郎 下谷の淨瑠璃座の座頭をしてゐた吉兵衛がね。「菊畑」の鬼一をして團十郎の使つた例の鳩の杖を使つたまではよかつたのだが、智恵内がためらふので「その杖、おこせ」で二人で杖を取合つたままカラ二を弾かせた氣味合ひから引取つて振上げようとしてヨロヨロとなり、大きく杖を前についてツケ入りの極りとなつて——

それは立たれば判らない。(と立上つて杖を前につく仕草を試みるが杖が長くて重れた兩手が額の上のあたりに行く恰好をして)「ここらなんだ。團十郎はね、同じ杖でも長いから先の方を向へすべらしてゐるから顎の下の邊で丁度恰好よく極れる。それを吉兵衛は知らなくて済してゐた。

—— 名筆竹に猿 ——

三津五郎 旅では随分面白いことがござんしたれ。「木十」で「夕顔棚のこなたより」でツツツンくまなつてゐるのに光秀の顔をかくして出る竹の子笠を借りに行つた奴が、下手がちお芝居を見てみてその筆を渡さないで大穴があいたといふことがありましたれ。

菊五郎 先の訥子さんの「吃又」で虎の小道具がないので猿を出したので将監役者が眼鏡をかけて「ハテ不思議や、顔輝の筆の、竹に猿の筆勢」をやつたつけれ。

三津五郎 五代目の伯父さんの「保名」で蝶の差出しを出すところを「先代」の一卷を咬へた鼠を出した話もありましたれ。

菊五郎 やけどの壽藏といふのが田舎を廻つてゐた時、「鳥の爲朝」を出すことになつて、どうしても弓が見付からなかつたので鎮守様

から借りたのさ。それでチンチリトチンで矢をつかれて弾かうとしたが弾けない。所謂強弓なのだわ。それで「島人手を借せ」といつた笑ひ話もあるよ。

—— 小便のメリヤス ——

谷崎 これは淡路で見た人形芝居ですが「堀川」の興次郎が小便に行くところで、犬が出てその禪を引張るところがあつたが、大阪ではやりませんか。

山城 親玉の玉遣さんなどばやつとりました。あすこんさころの三味線は（チンチンレン、チンチリガン）と強くのですが、これを小便のメリヤスなどと申したりします。それから「更けゆく——」となるのですが、今はやりません。

谷崎 男が女をくどきに行くときに前を突上げてゐるのを見ました。山城 こちらではそこまでやりま

せん。わたくしが大阪へ参りましたから來年（昭和二十三年）で、六十年になりますか——。

菊五郎 あなだが？

山城 明治廿二年十二歳でこちらへ参りました。その頃なんか「宮守酒」で萌黄のすかしの障子を立てた一間へ女之助が夕しでを連れて入りますと、橋立が紙を入れてやるところがあつて、そして二人が寝るところまで見せました。

多田 仲々際どいところをやつたものですれ。

山城 ア、思ひ出しました、わたくしの師匠の津太夫さんが「大經師」を出したとき、助右衛門が素裸で赤禪を垂れて夜逼ひに行くところがありまして、先代紋十郎さんが遣つて居られましたか、禪の下に棒を入れて居られましたね。武智 今だつたらうけるでせう。大西 たいへん面白いお話でおなごり惜しいですが、この邊で……。

一、藝術院會員 文樂座穩下
豊竹山城少掾

二、藝術院會員 歌舞伎
尾上菊五郎

三、能樂寶生流シテ方
野口兼資

四、狂言大藏流
茂山彌五郎

五、藝術院會員 能樂喜多流宗家
喜多六平太

六、藝術院會員 地唄
富崎春昇

七、文樂座人形座頭
吉田文五郎

八、能樂金春流宗家
金春光太郎

九、能樂大鼓方葛野流宗家代理
川崎九淵

十、藝術院會員 舞踊坂東流宗元
坂東三津五郎

昭和二十三年度

名人ベスト・テン

照選 観推

も、藝術院會員に納まることも多く

我が國の藝能界は、終戦後、新しいものが盛んになつて来たのとともに、古きものも亦、戦時中の便乗的な、盲目的な謳歌とは異り

息吹を盛り返したかに見える。文樂の人形淨瑠璃が寶物の如く見られたり、歌舞伎が興行界に君臨したり、また能樂が以前に増して盛んになつて来てはゐる。だが、その觀照は正しく行はれてゐるだらうか。ちよつと毛色の變つた存在を名人にあげたり、人氣さりのまやかし者を上手扱ひにしたりしてはゐないだらうか

最近、藝能界の諸方面から

なつたが、果してそれが當を得てゐるだらうか。眞に藝能界を代表する人々を選んでゐるだらうか。

藝術院の官選名人や、ジャーナリズムや宣傳戰の製造した名人にあきたらぬ本誌では、眞に、純然たる藝術の見地から、毎年その年度の古典藝能の畑から、十人の名人を選定、推奨することとし、まづ昭和二十三年度として、上記の十名人を決定したのである。

藝能界の名人ベスト・テンの選衡に當つた者は、「觀照」同人並びに社友或は准同人ともいふべき左の十六名であつた。

林雅夫。林秀雄。沼艸雨。大西重孝。片山博通。吉田幸三郎。高安六郎。谷崎潤一郎。多田嘉

七。武智鐵二。安宅英一。安藤鶴夫。北岸佑吉。澁谷武雄。守田俊郎。須田國太郎。

採點の方法は、各自が十名づゝの